

活動名	団体名	ロボカップジュニアジャパン広島ブロック運営委員会
青少年のロボット競技へのチャレンジ活動 ～「マツダ財団オープン大会」の開催～	地域	広島県広島市
	代表者	代表 山野 真一
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>1. 目的:</p> <p>以下の2点を目的として実施致しました。</p> <p>I. 理科(科学)に関する興味の醸成:</p> <p>II. 人間力・問題解決力の育成:</p> <p>2. 内容:</p> <p>例年の体験会～講習会～地区予選～全国大会の流れに加えて、地方大会としての「せとうちオープン」の内容の充実を図りました。</p> <p>世界大会でしか実施例のない「ビッグフィールド」を使った5vs5の競技を実施。年長者がチーム運営を行うことで、リーダーシップの醸成にも役立ったと考えています。</p> <p>◆実施時期 2014年5月3日～2015年3月30日 広島県内:広島地区 広島市こども文化科学館、広島市青少年センター 福山地区 福山大学、福山大学宮路茂記念館</p> <p>◆参加人数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「マツダ財団後援 ロボカップジュニアせとうちオープン」:74名</li> <li>・ジャパンオープン報告会:32名</li> <li>・ロボカップ体験会:179名</li> <li>・技術講習会:8名×4回</li> <li>・ロボカップ練習会:延べ187名</li> <li>・広島地区予選:58名 &lt;上記全て スタッフを除く&gt;</li> </ul> <p style="text-align: right;">参加総人員:延べ562名</p>		



「マツダ財団後援 ロボカップジュニアせとうちオープン」

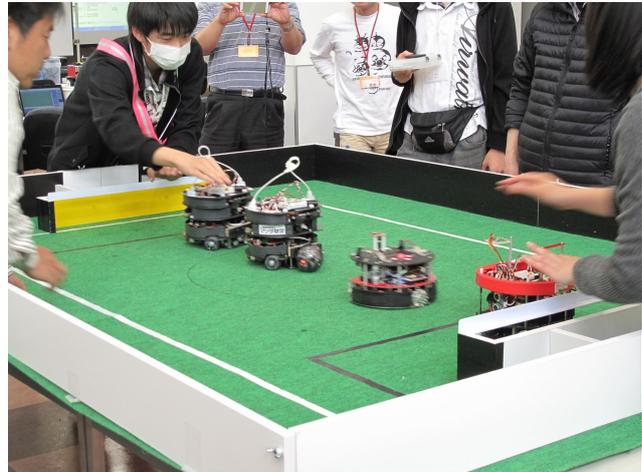


ロボカップ体験会

#### ◆実施に伴う効果

上記①の地方大会の開催により、地域を跨いだ活動の活性化をもたらした結果、これをひな形として、各地での地方大会の活性化に繋がっています。また、子供たち同士での SNS によるネットワークによって、情報交換・技術交流が進んでいます。

また、開催時期がジャパンオープンと世界大会の中間であるため、世界大会出場チームが調整戦として出場する例が増えました。地方でも世界レベルの競技を見れる環境を提供できています。



#### ◆苦労した点

##### ・県内での認知度の低さ

毎年、約 6 万枚のチラシを県内の小中学校に配布して、体験会を実施しています。

しかし、学校に送り届けても配布されない事が多々あります。

これは「認知度の低さ」に起因するものと考えています。

広島では他県と比べて体験会、練習会の開催を多く実施しています。しかし広島でのエントリーの少なさは際立っています。(他県では数百人規模の競技人口となっています。)

さらなる情報発信と広報活動が必要であると考えています。

(大学との連携が出来てきているので、これを推し進める事が大切と考えています。)

##### ・保護者の理解の違い

子供たちは「競技」、「ロボット」を対象としています。保護者(ロボカップではメンターと言います)の対象は「子供たち(選手)」です。ところが、メンターがロボットを対象とする例が多々見られます。(お父さんがロボット&プログラムを作ってしまう、子供が理解できていない)

ルール&監視で抑止するも、巧妙化してゆくため悩みどころです。

(そういった状況を経験して、子供たちに何のメリットがあるのか、、、)

#### ◆今後の課題・発展の方向性

「せとうちオープン」が全国的にメジャーになり、ロボカップジュニア日本委員会の理解も得られて、競技活性化のモデルケースとして取り上げられるようになってきました。

大学、高専の協力を得られるようになり、学生が教育コンテンツの作成に携わり始めました。競技の卒業生達による指導含めて、良いサイクルに繋がればと考えています。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

「科学」「理系」「ロボット」への関心が高まる中で、親が「させたい」と、子供たちが「したい」という意識が噛み合う事が増えてきたように思います。

(以前は「どうせむり」と言われる保護者が多かったのですが、そういった例が減りました。)

今後も「継続」することで、「意味」「意義」「価値」を伝えてゆこうと考えております。